

令和2年度 指定管理施設運営状況中間評価表

1. 施設の概要

施設の名称	むつ市わきのさわ鯛島の館、むつ市脇野沢体験農園	
指定管理者	団体名	一般社団法人むつ市脇野沢農業振興公社
	代表者	理事長 二本柳 茂
	所在地	むつ市脇野沢七引201番地5
指定期間	平成30年4月1日～令和3年3月31日（3年間）	
指定管理業務の概要	(1) わきのさわ鯛島の館及び体験農園施設の維持管理と施設運営 (2) 施設の使用許可と利用料金徴収 (3) 施設の維持及び修繕	

2. 収支の状況 ※消費税及び地方消費税を含んだ額を計上すること。自主事業分は含まないこと。

※原則として他会計からの繰入金及び他会計への繰出金は含まないこと。

※人件費には、経常の指定管理業務にかかる人件費のみを記載し、臨時的な日雇い雇用などの賃金を含まないこと。

単位：千円

区 分	計 画 額 ①	実 績 額 ②	増 減 (②-①)
収 入 合 計 (A)	7, 5 8 3	5, 6 8 8	△ 1, 8 9 5
うち利用料金額	0	0	0
うち指定管理料	7, 5 8 3	5, 6 8 8	△ 1, 8 9 5
支 出 合 計 (B)	7, 5 8 3	3, 4 1 6	△ 4, 1 6 7
うち人件費	4, 0 0 6	1, 8 3 2	△ 2, 1 7 4
収支差 (A-B)	0	2, 2 7 2	2, 2 7 2
市への納入金	0	0	0
計画額と比較した実績額の増減理由			

3. 施設利用の状況

	区 分	計 画 ①	実 績 ②	増 減 (②-①)
利用者数	鯛島の館入館者数	9, 0 0 0人	1, 6 6 0人	△ 7, 3 4 0人
	肉処理加工室利用日数	0日	20日	20日
	会議室・研修室利用日数	30日	7日	△ 23日
	農産加工研究室利用日数	50日	2日	△ 48日
	体験農園利用者数	1人	1人	△ 0人
利用者の声とその対応状況 ※利用者アンケートの実施（有 無 ）				

4. 自主事業の実施業況

単位：人、千円

事 業 名	利 用 者 数	収 入	支 出

5. 個別項目評価 ※指定管理者と市の所管課が評価

評価基準 A（優良）：計画された業務水準を大きく超える、独自の取組を実施するなど、特にめざましい成果をあげることが見込まれる。

B（適正）：適正に指定管理業務を行っており、計画された業務水準を達成できることが見込まれる。

C（要改善）：指定管理業務の一部に課題があると認められ、改善の余地がある。

評価項目	自己評価	市の評価
(1) 施設設置目的に添ったサービス向上に関する取組み状況		
①開館時間、休館日等を守り、施設利便性の確保に努めたか。	B	B
②施設の使用許可、使用料減免等が適正、円滑に行われたか。	B	B
③利用者に対する接客マナー等、職員の勤務態度は適正だったか。	B	B
④利用者の意見を聴取し、それらを反映する取組みを行ったか。	B	B
(2) 利用促進に関する取組み状況		
①施設利便性を高める努力を行い、効果が得られたか。	B	B
②潜在的な利用者等に営業広報活動を行い、利用アピールをしたか。	B	B
③自主事業を企画・実施し、効果が得られたか。		
(3) 効率性の向上に関する取組み状況		
①施設管理経費を低減するための取組みを行い、効果があったか。	B	B
②収入増を図るための取組みを行い、効果があったか。	B	B
③職員の資質・能力向上を図る取組みがされたか。	B	B
(4) 施設の適正な維持・管理に関する取組み状況		
①施設の維持管理、運営に当たる人員配置は適正であったか。	B	B
②設備・備品の維持管理及び修繕が適切に行われたか。	B	B
③労働関係法令等を遵守し、適正な管理を行ったか。	B	B
④利用料金の収受及び施設管理費の支出は適正であったか。	B	B
(5) 平等利用、安全対策、危機管理等に関する取組み状況		
①利用者が平等に利用できるよう施設利用情報提供に配慮したか。	B	B
②日常の事故防止等の安全対策は適切であったか。	B	B
③防犯、防災対策等の危機管理体制は適切であったか。	B	B
④利用者の個人情報保護は徹底されていたか。	B	B

6. 指定管理者総合評価 ◎自己評価をAとした項目の内容及びCとした項目の改善策を記載すること。

流通加工施設は、肉在庫がないため使用されていないが、冷凍庫等の維持管理を行った。
「みょうが」の集出荷作業に農村活性化施設を利用し、出荷作業を行った。また、来館者へ対し、中央ホールのジオパークコーナーのPRに努めた。
体験農園は利用申込者がいない状態となっているが、野菜の試験栽培を行なった。
施設周辺の草刈を定期的に行ない、環境美化に努めた。

7. 市の所管課総合評価

流通加工施設については、冷凍庫等の維持管理を適切に行っている。農村活性化施設を利用した「みょうが」の出荷作業や、来館者へ対する中央ホールのジオパークコーナーのPRに努めており、利用促進に取り組んでいる。体験農園は利用申込者がいない状況ではあるが、利用者を積極的に募っている。また、農園の一部を活用した試験栽培についても、有効な施設活用であると評価できる。
施設周辺の草刈を定期的に行ない、環境美化に努めており、適正な指定管理業務を行なっている。